

1. 会議名称：第2回技術士制度・試験講習会

(主催：日本原子力学会 / 共催：早稲田大学・東京都市大学共同原力専攻、日本保健物理学会)

2. 開催日時：2012年03月03日(土)・13:00~17:00

3. 開催場所：早稲田大学・西早稲田キャンパス・55号館N棟・第2会議室

4. 講習会受講者：23名

5. 内容(総合司会：中野智仁氏)

5.1 挨拶(岡芳明先生)

- ・ 「横に広い知識を持った専門家の育成」及び「人と人を繋ぐ組織の確立」の不足が福島第一原子力発電所事故の問題点である。

5.2 挨拶(工藤和彦先生)

- ・ 福島第一原子力発電所事故は夢にも思っていなかった事故であり、事故後は色々と悩んだ。しかし、原子力利用の推進が必要であると確信している。是非技術士合格を目指して欲しい。



5.3 技術士制度・試験の内容紹介(発表者：榊勲氏)

- ・ 技術士になるための「経路2(一次試験に合格した後、技術士に相当する高度な技術者の指導の下で研鑽を積む)」が理解されていない。
- ・ 技術士法をきちんと理解していないと口頭試験で不合格になる可能性がある。

5.4 一次試験合格者からの体験談(発表者：貞包英昭氏、伊藤友加里氏)



- ・ 貞包氏からは、過去の問題をしっかりと解いておくこと、規制動向をタイムリーに確認することが重要であり、後者については社会人になってからも大きな財産となったことが話された。
- ・ 伊藤氏からは、働きながら勉強する、子育てをしながら勉強するに当たっては、まとめて勉強する時間がとれないので、通勤時、待ち時間等を有効に活用することが大切であること、過去の問題を解いておくことが重要であること、各分野は60%以上正解できれば合格となるので、得意分野を伸ばすとともに、苦手分野は中高生向け参考書で勉強すると良いことが話された。

5.5 一次試験に関する質疑応答

- ・ 一次試験の合格科目と二次試験の受験科目が異なっても良いか、との質問があり、構わないとの回答があった。
- ・ 受験する分野の経歴が不足しているのだがどうしたら良いか、との質問があり、受験する分野の経歴ではなくても技術士にふさわしい業務の経歴があれば問題ないとの回答があった。

ただし、受験する分野の経歴が極端に少ない場合には、面接で厳しい質問が予想されるとのアドバイスがあった。

#### 5.6 二次試験合格者からの体験談（発表者：佐川寛氏、内田剛志氏）

- ・ 佐川氏からは、技術的経験を適切に表現することが大切であり、やってもいないことを取り繕って表現しても意味がないこと、そのため若い時の苦労は買ってでもしておくべきであること、過去の問題を出来るだけ解いておくこと、ATOMICAを有効に利用すること、専門外の人にわかりやすい文章を心掛けることが話された。
- ・ 内田氏からは、長い受験期間にモチベーションを維持するためにも、技術士が法においてどのように定義されているのかを理解し、それと自分の経験を関係付け、受験動機を明確にすることが重要であること、受験願書作成の段階で技術士の定義の視点から自分の実績を明確にしておくこと、体験論文及び口頭試験は受験願書との整合性が必要となることを十分意識して受験願書を作成すること、原稿用紙は最後まで使い切ること、余白は極力設けないこと、図は口頭試験での説明にしやすさや分かりやすさを意識すること、ただし、美術の試験ではないことを十分に認識すること、課題解決のアプローチは出来るだけ定量的かつ簡潔に述べること、健康には十分留意すること。昼食は必ず用意することが話された。



#### 5.7 二次試験に関する質疑応答（対応者：濱崎学氏、貞包英昭氏、伊藤友加里氏、佐川寛氏、榊勲氏、横堀仁氏、岡村章氏）



- ・ 福島第一事故の影響で、リスクコミュニケーションについての問題が出されているほか、技術士として福島第一事故にどのように向かい合うのか、ということをも具体的に関問が出题されているため、最新の動向について正確に把握しておくことが重要であることが話された。
- ・ 「具体的な数字を上げて」という出題がなされており、正確な知識が必要であることが話された。

#### 5.8 閉会挨拶（桑江良明氏）

#### 5.9 個別質問、相談コーナー（対応者：桑江良明氏、岡村章氏、貞包英昭氏、伊藤友加里氏、中野智仁氏、榊勲氏、内田剛志氏、畑孝也、佐川寛氏、阿部定好氏、濱崎学氏、横堀仁氏、高橋一智氏）

以上